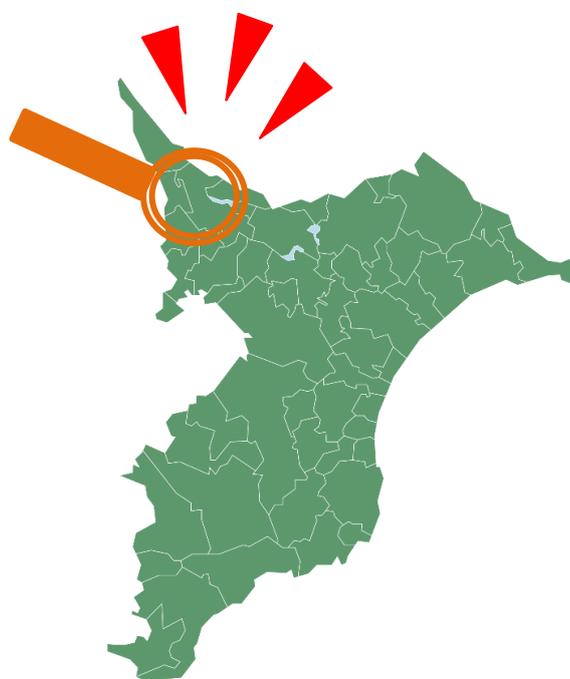


柏の景気情報

令和3（2021）年9月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

調査要領

調査期間

令和3年9月27日 ～ 令和3年10月7日

調査対象

柏市内129事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	129	89	69.0%
建設	31	19	61.3%
製造	35	23	65.7%
卸・小売	38	29	76.3%
サービス	25	18	72.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				

令和3年（2021年）9月の動向

【業況について】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.9(前月水準▲30.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.2(同▲51.7)、サービス業▲22.2(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲34.7(同▲11.5)、建設業▲31.5(同▲31.2)であ

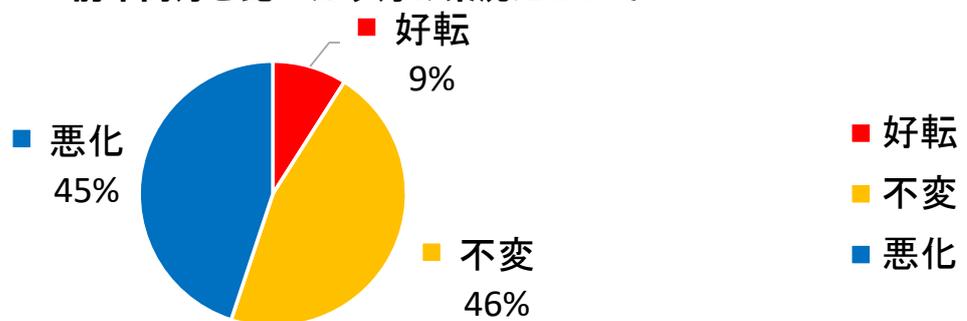
○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.6(前月水準▲19.3)となり、マイナス幅が13.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△4.3(同▲3.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲48.2)、建設業▲10.5(同▲25.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△5.5(同△11.7)である。

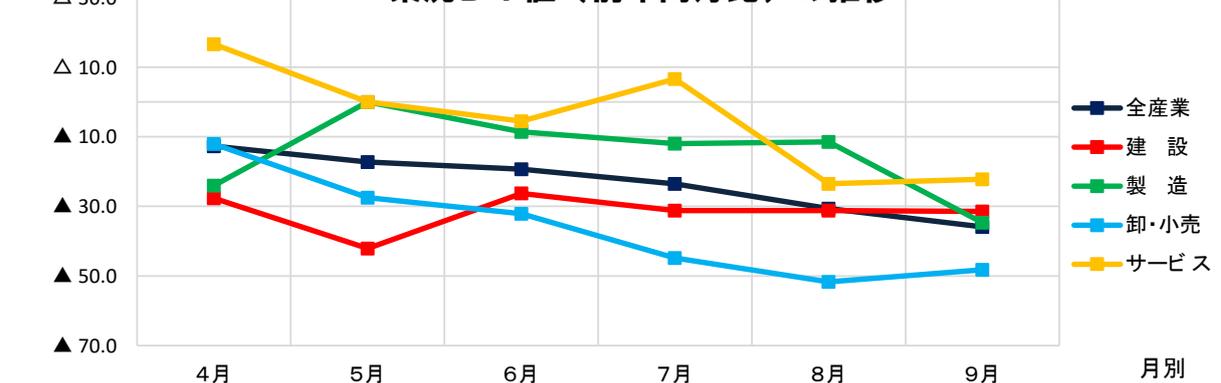
業況DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲12.7	▲17.3	▲19.3	▲23.5	▲30.6	▲35.9	▲5.6(▲19.3)
建設	▲27.7	▲42.1	▲26.3	▲31.2	▲31.2	▲31.5	▲10.5(▲25.0)
製造	▲24.0	±0.0	▲8.6	▲12.0	▲11.5	▲34.7	△4.3(▲3.8)
卸・小売	▲12.1	▲27.5	▲32.1	▲44.8	▲51.7	▲48.2	▲17.2(▲48.2)
サービス	△16.6	±0.0	▲5.5	△6.6	▲23.5	▲22.2	△5.5(△11.7)

前年同月と比べた今月の業況について



業況DI値(前年同月比)の推移



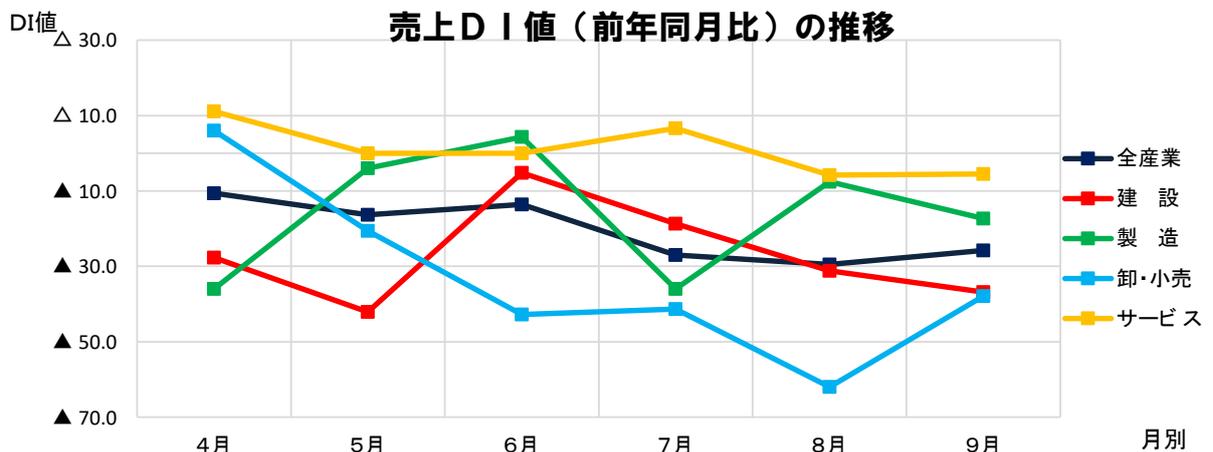
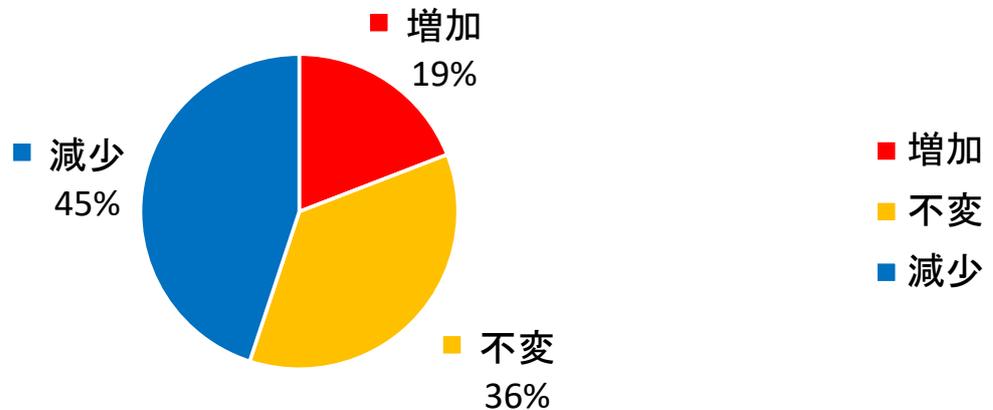
【売上について】

- 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.8(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が3.7ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲62.0)、サービス業▲5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.3(同▲7.6)、建設業▲36.8(同▲31.2)である。
- 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.3(前月水準▲15.9)となり、マイナス幅が12.6ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△11.1(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△5.2(同▲12.5)、製造業△8.6(同▲7.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲27.5(同▲34.4)である。

売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲10.6	▲16.3	▲13.6	▲27.0	▲29.5	▲25.8	▲3.3(▲15.9)
建設	▲27.7	▲42.1	▲5.2	▲18.7	▲31.2	▲36.8	△5.2(▲12.5)
製造	▲36.0	▲4.0	△4.3	▲36.0	▲7.6	▲17.3	△8.6(▲7.6)
卸・小売	△6.0	▲20.6	▲42.8	▲41.3	▲62.0	▲37.9	▲27.5(▲34.4)
サービス	△11.1	±0.0	±0.0	△6.6	▲5.8	▲5.5	△11.1(±0.0)

前年同月と比べた今月の売上について



【採算について】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.2(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.8(同▲58.6)、サービス業▲5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲30.4(同▲15.3)、建設業▲26.3(同▲25.0)である。

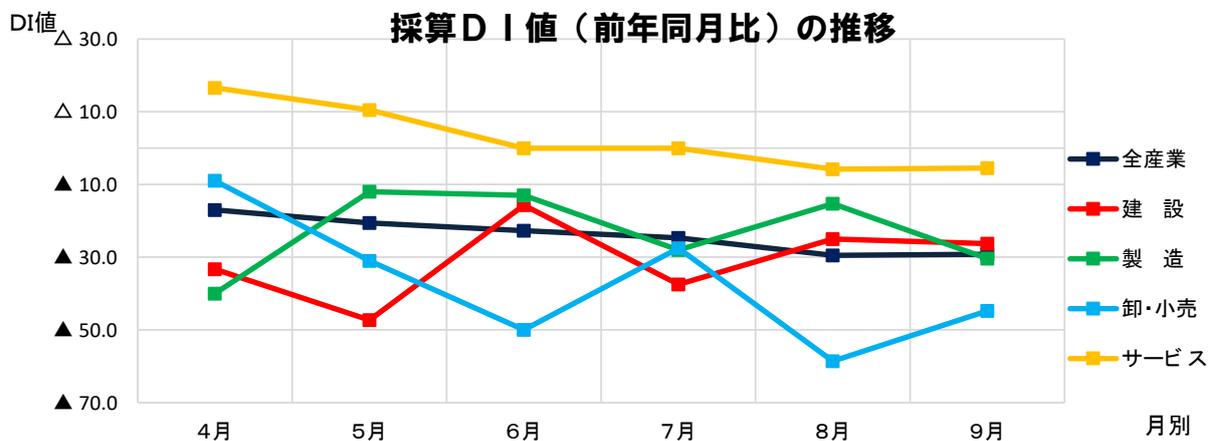
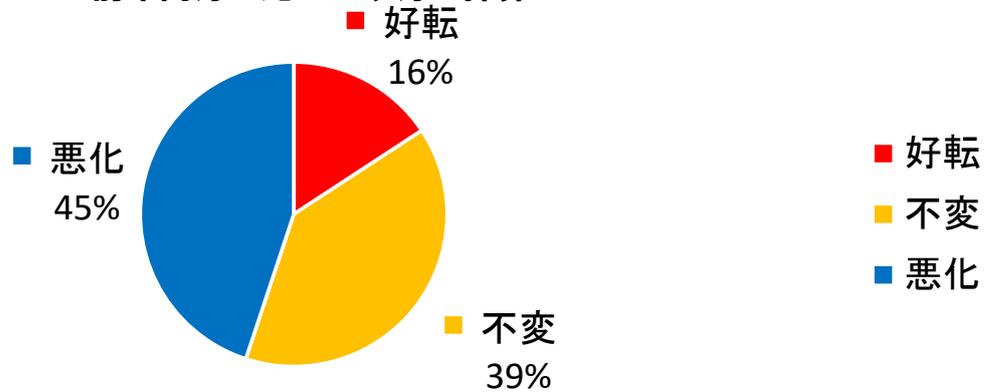
○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.3(前月水準▲21.5)であり、マイナス幅が9.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲15.3)、卸小売業▲31.0(同▲41.3)、建設業▲10.5(同▲18.7)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。

採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し	
	4月						10月~12月(9月~11月)	
全産業	▲17.0	▲20.6	▲22.7	▲24.7	▲29.5	▲29.2	▲12.3(▲21.5)	
建設	▲33.3	▲47.3	▲15.7	▲37.5	▲25.0	▲26.3	▲10.5(▲18.7)	
製造	▲40.0	▲12.0	▲13.0	▲28.0	▲15.3	▲30.4	±0.0(▲15.3)	
卸・小売	▲9.0	▲31.0	▲50.0	▲27.5	▲58.6	▲44.8	▲31.0(▲41.3)	
サービス	△16.6	△10.5	±0.0	±0.0	▲5.8	▲5.5	±0.0(±0.0)	

前年同月と比べて今月の採算について



【仕入単価について】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.0(前月水準▲40.9)となり、マイナス幅が5.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲16.6(同▲5.8)、建設業▲47.3(同▲37.5)、製造業▲69.5(同▲65.3)、卸小売業▲44.8(同▲41.3)である。

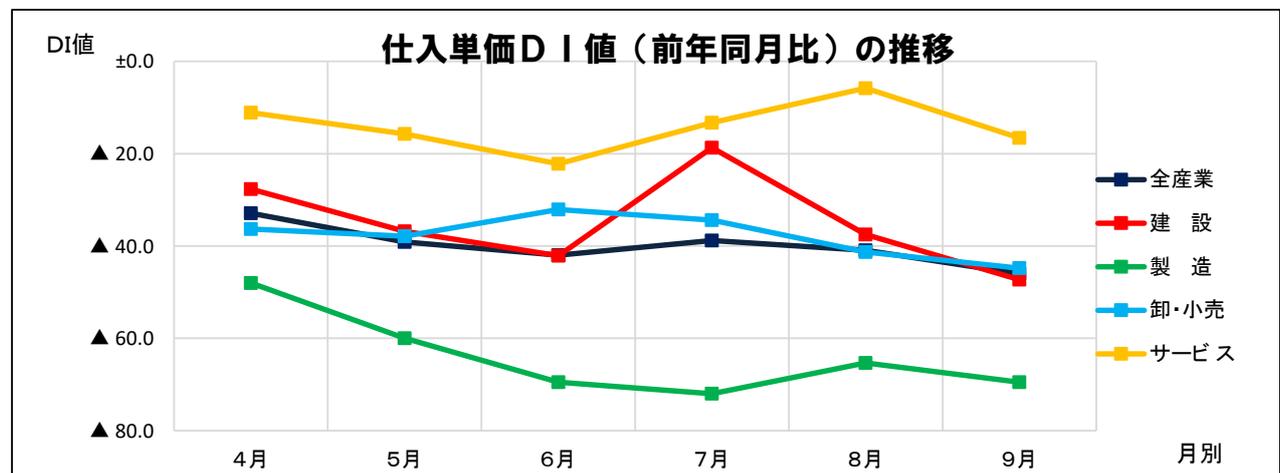
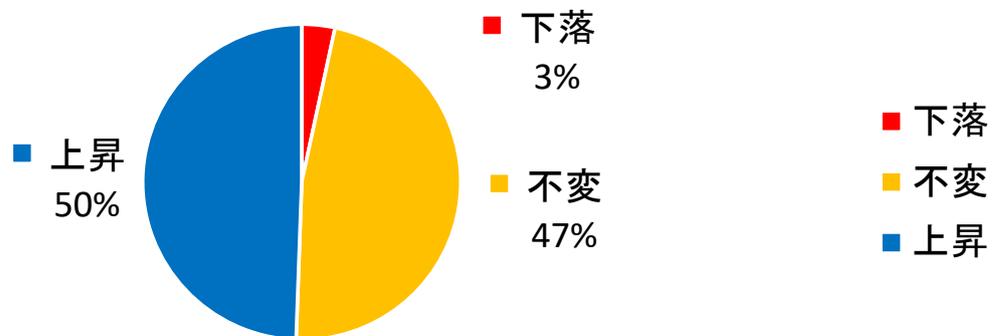
○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.4(前月水準▲39.7)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.4(同▲41.3)、製造業▲60.8(同▲65.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22.2(同▲5.8)、建設業▲42.1(同▲31.2)である。

仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲32.9	▲39.1	▲42.0	▲38.8	▲40.9	▲46.0	▲40.4(▲39.7)
建設	▲27.7	▲36.8	▲42.1	▲18.7	▲37.5	▲47.3	▲42.1(▲31.2)
製造	▲48.0	▲60.0	▲69.5	▲72.0	▲65.3	▲69.5	▲60.8(▲65.3)
卸・小売	▲36.3	▲37.9	▲32.1	▲34.4	▲41.3	▲44.8	▲34.4(▲41.3)
サービス	▲11.1	▲15.7	▲22.2	▲13.3	▲5.8	▲16.6	▲22.2(▲5.8)

前年同月と比べた今月の仕入単価について



【従業員について】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△6.7(前月水準△6.8)となり、プラス幅が0.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△13.0(同▲3.8)である。変らない業種は、卸小売業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△21.0(同△25.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲5.5(同△17.6)である。

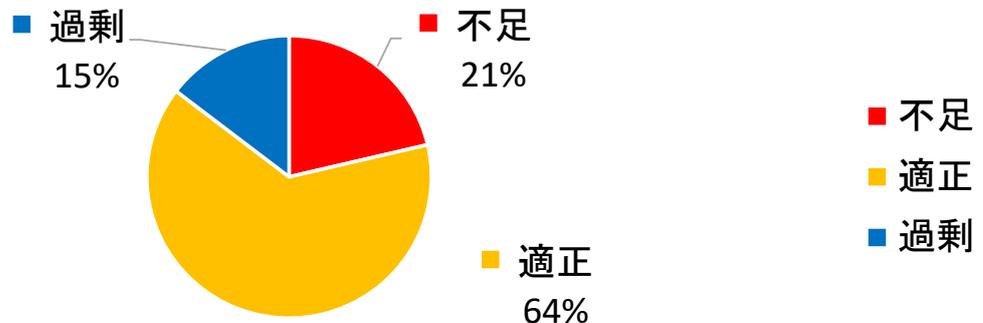
○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.8(前月水準△12.5)となり、プラス幅が4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△21.7(同±0.0)、建設業△26.3(同△12.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△11.1(同△29.4)、卸小売業△10.3(同△13.7)である。

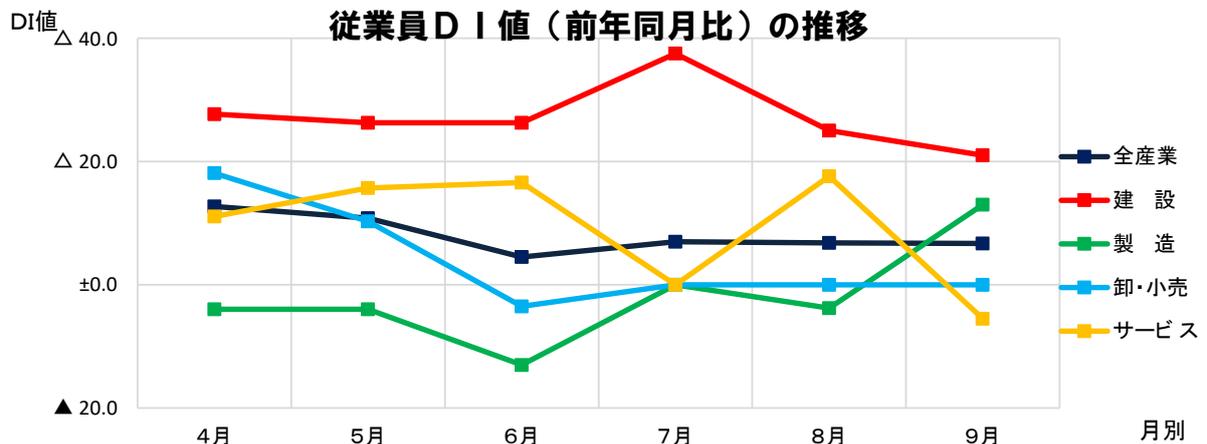
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△12.7	△10.8	△4.5	△7.0	△6.8	△6.7	△16.8(△12.5)
建設	△27.7	△26.3	△26.3	△37.5	△25.0	△21.0	△26.3(△12.5)
製造	▲4.0	▲4.0	▲13.0	±0.0	▲3.8	△13.0	△21.7(±0.0)
卸・小売	△18.1	△10.3	▲3.5	±0.0	±0.0	±0.0	△10.3(△13.7)
サービス	△11.1	△15.7	△16.6	±0.0	△17.6	▲5.5	△11.1(△29.4)

前年同月と比べた今月の従業員について



従業員DI値(前年同月比)の推移



【資金繰りについて】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が9.3ポイント縮小した。

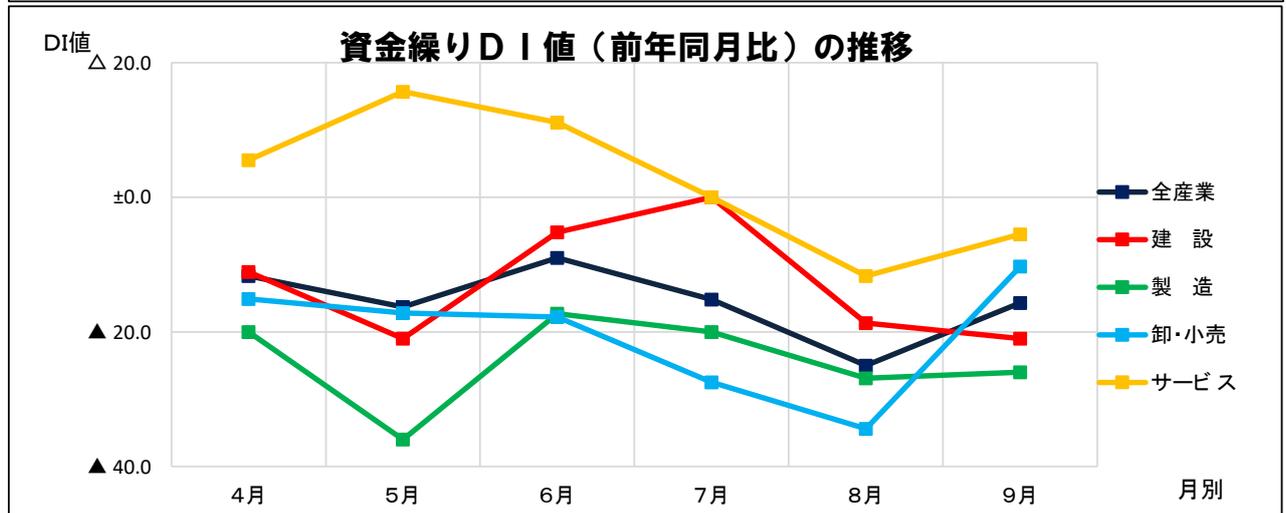
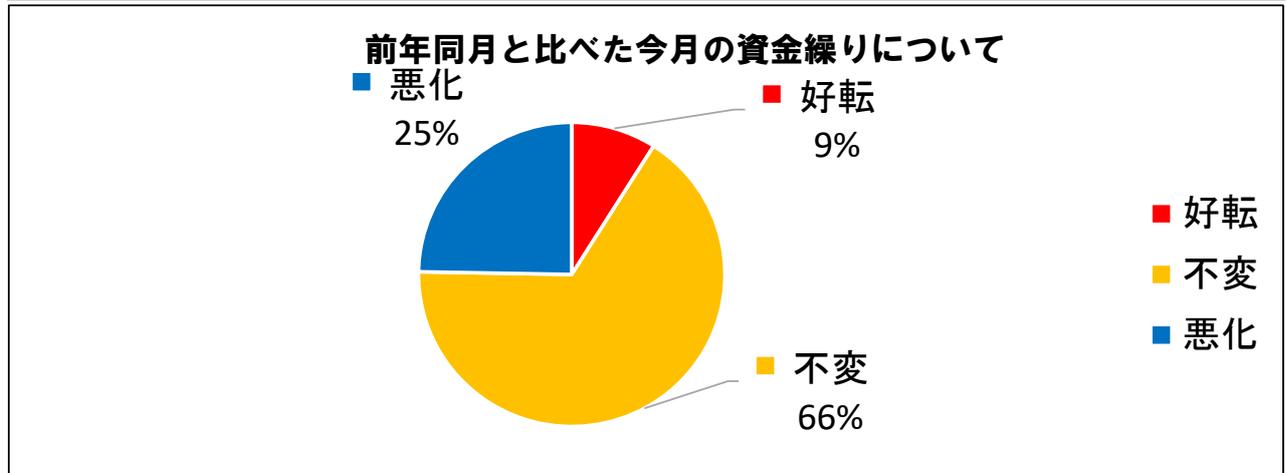
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲10.3(同▲34.4)、サービス業▲5.5(同▲11.7)、製造業▲26.0(同▲26.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲21.0(同▲18.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.4(前月水準▲21.5)となり、マイナス幅が17.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△16.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲6.8(同▲34.4)、製造業▲13.0(同▲26.9)、建設業▲10.5(同▲12.5)である。

資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲11.7	▲16.3	▲9.0	▲15.2	▲25.0	▲15.7	▲4.4(▲21.5)
建設	▲11.1	▲21.0	▲5.2	±0.0	▲18.7	▲21.0	▲10.5(▲12.5)
製造	▲20.0	▲36.0	▲17.3	▲20.0	▲26.9	▲26.0	▲13.0(▲26.9)
卸・小売	▲15.1	▲17.2	▲17.8	▲27.5	▲34.4	▲10.3	▲6.8(▲34.4)
サービス	△5.5	△15.7	△11.1	±0.0	▲11.7	▲5.5	△16.6(±0.0)



調査結果のポイント

◀全産業DIは5か月連続で悪化。緊急事態宣言が解除となり、経済活動の正常化へ向かう期待感は強い▶

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.9(前月水準▲30.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.2(同▲51.7)、サービス業▲22.2(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲34.7(同▲11.5)、建設業▲31.5(同▲31.2)である。

緊急事態宣言が発出している中、大型小売店からは、銘菓や駅弁など地域フェアは好調を維持し、子育て世代のネットスーパー利用が増加している、不動産業からは、一般顧客の買い意欲は底堅い、駐車場の稼働率が上昇傾向であるとコメントがあった。DI値が大きくマイナスした製造業は、受注は好転しつつも半導体不足、材料の値上げが深刻で、価格転嫁に悩んでいる。また、建設業からは人手不足や原材料高騰についてコメントがあった。

先行きDIは▲5.6(前月比+30.3)であり、緊急事態宣言の解除により、経済活動の正常化に対する期待感は強い。

【建設業】からは、「緊急事態宣言解除で、今後の展開など情報交換の機会ができればよい」(塗装工事)、「相変わらず人手不足。オリンピック後の景気後退は起こるのか。ゼネコン不況の波が、いつ地元に向かってくるか」(土木工事)、「62周年企画でベイスショップを開設。ネット通販が可能に」(畳)、「ウッドショックで木材が高騰。建築資材は全般的に値上がりしている」(一般土木建築工事)、「従業員不足で仕事がかどらない上、従業員が濃厚接触者に。人手不足に拍車をかけ、売上に大きく響いている」(とび)、「年内は好転が続く。来年以降は読めない」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「コロナで滞っていた海外工場の生産ラインが僅かに動き、発注がかかりだした。しかしコロナ前の1割程度で、回復には遠い」(プラスチック加工)、「受注は好転。鉄鋼材料の値上げと半導体不足の影響が続き、先が見通せない」(機械・同部品)、「半導体不足の余波で、引き続き売上減。10月以降は受注増加を見込んでいる。原材料の高騰は吸収できず、値上げ交渉をするほど。今まで社内感染者ゼロなので、今後も対策を講じて従業員の健康と会社の生産活動を守りたい」(金属製品)、「業務用の製造が無く、従業員の自宅待機を実施。緊急事態宣言の解除で飲食需要が増え、製造量の増加を予想している」(酒類)、「自動車・半導体関連ともに、客先の半導体入手困難で減産拡大。また、ベトナムが7~9月の間ロックダウンしている影響で、工業用ミシンの現地部品が入手困難」(金属素形材製品)、「仕入材料が値上げ傾向だが、価格転嫁が難しい。今後も値上げは増える予想」(化学工業)、「派遣スタッフが不足しているが、採用まで至らず。新しい設備投資は順調。当分はテレワークを継続」(鉄鋼)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「早くコロナが収束することを祈り、まずは防疫が最優先」(百貨店)、「お彼岸は縮小傾向だったが、銘菓や駅弁など地域フェアは好調を維持。子育て世代のネットスーパー利用が増加」(大型小売店)、「祝日が不規則な中、安定して受注を確保できた」(建築材料卸売)、「9月は売り出しの成績が少し良く一安心。緊急事態宣言解除で感染拡大が心配。初期感染者向け経口薬承認を待ち望む!」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「9月上旬の長雨で客足が鈍った」(洋菓子店)、「人の流れが戻ってきており、更に良くなると思う。迎える対応は手を抜いてはいけない」(各種商品小売)、「コロナ禍の販売方法が固まりつつある。今後、宣言解除、年末商戦で数字は悪くならないと思う。小売店や飲食店が、今がチャンスと出店しており、うまく波にのりたい」(農畜産物・水産物卸売)「緊急事態宣言とお盆前の高気温、その後の雨で地元生産物が収穫不良になるなど、悪影響が重なった」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「お酒が提供できず売上減。10月以降は提供開始で客数増加が見込めるが、厳しい状況は続きそう」(日本料理)、「コロナ明けの準備段階に来たかなと感じている。税理士業界は、企業の減少数に比例して悪くなると思うが、当分は不変かと思う」(税理士)、「昨年手がけた事業基盤を元に、数珠繋ぎに受注見込み」(ソフトウェア業)、「売り物件が減少したまま、価額も高止まり。建売住宅用地が激減。一般の最終顧客の購入意欲は底堅い」(不動産管理)、「今秋、既存テナントの契約形態変更に伴う改定があり、家賃収入の改善を見込む。駐車場の稼働率が上昇傾向」(不動産賃貸・管理)、「9月は通塾とオンラインで交互に授業した。生徒からオンラインは集中力が欠ける、講師から確認テストが行いにくいと不満が出た。10月から通塾に戻すが、今の内にオンライン対策をしたい」(学習塾)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
6月	▲19.3	▲26.3	▲8.6	▲32.1	▲5.5
7月	▲23.5	▲31.2	▲12.0	▲44.8	△6.6
8月	▲30.6	▲31.2	▲11.5	▲51.7	▲23.5
9月	▲35.9	▲31.5	▲34.7	▲48.2	▲22.2
見通し	▲5.6	▲10.5	△4.3	▲17.2	△5.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【業種別】 今月及び先行きのD I 値

	売上高（受注・出荷）		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 25.8	▲ 3.3	▲ 29.2	▲ 12.3	▲ 46.0	▲ 40.4	△ 6.7	△ 16.8
建設	▲ 36.8	△ 5.2	▲ 26.3	▲ 10.5	▲ 47.3	▲ 42.1	△ 21.0	△ 26.3
製造	▲ 17.3	△ 8.6	▲ 30.4	±0.0	▲ 69.5	▲ 60.8	△ 13.0	△ 21.7
卸・小売	▲ 37.9	▲ 27.5	▲ 44.8	▲ 31.0	▲ 44.8	▲ 34.4	±0.0	△ 10.3
サービス	▲ 5.5	△ 11.1	▲ 5.5	±0.0	▲ 16.6	▲ 22.2	▲ 5.5	△ 11.1

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 35.9	▲ 5.6	▲ 15.7	▲ 4.4
建設	▲ 31.5	▲ 10.5	▲ 21.0	▲ 10.5
製造	▲ 34.7	△ 4.3	▲ 26.0	▲ 13.0
卸・小売	▲ 48.2	▲ 17.2	▲ 10.3	▲ 6.8
サービス	▲ 22.2	△ 5.5	▲ 5.5	△ 16.6

CCI - LOBOとの比較

※CCI-LOBOとは…日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

【業況DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲35.9に対し、「CCI-LOBO」が▲33.2で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業、製造業は10ポイント以上悪い。

【売上DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲25.8に対し、「CCI-LOBO」が▲30.4で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【採算DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲29.2に対し、「CCI-LOBO」が▲34.4で柏の方がマイナス幅が5.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

【仕入単価DI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲46.0に対し、「CCI-LOBO」が▲44.1で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。

【従業員DI】

全産業合計では、「柏の景気」が△6.7に対し、「CCI-LOBO」が△10.1で柏の方がプラス幅が3.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上悪い。

【資金繰りDI】

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が6.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、10ポイント以上悪い。

【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	トピック	業種
建設業	非常事態宣言が解除されて集まる機会などが増えることで、今後の展開などを情報交換できればよいと考えている。年末に第5波が来ることも予測されているので、最大限の注意をして感染拡大防止を行う。	緊急事態宣言の解除 情報交換 感染防止対策	塗装工事業
	相変わらず人手不足。オリンピック後の景気後退は起こるだろうか。ゼネコン不況の波が、いつ地元企業に迫ってくるのだろうか。	人手不足 オリンピック後の景気後退	土木工事業
	62周年の記念企画として、ベイスショップを開設。やっとでネット通販が可能となった。	ネット通販	畳工事請負・畳製造販売業
	ウッドショックにより木材の価格が高騰している。また、建築資材が一般的に高騰している。	ウッドショック 建築資材の高騰	一般土木建築工事業
	従業員不足がなかなか解消されないまま、仕事がかどらない上、コロナによる従業員の濃厚接触者の指定があり。ますます人手不足が拍車をかけた状態になり、売りに上げに大きく響いている。	人出不足	とび
	年内は、好転力続く。来年以降は読めない。	年内好況 先行き不透明	職別工事業
製造業	新型コロナの影響で滞っていた海外工場の生産ラインが僅かながら動いたようで、ぼちぼちではあるが発注がかかりだした。しかしコロナ前に比べれば1割程度で、回復軌道には程遠い状況。	海外工場の生産ライン稼働	プラスチック加工
	依然としてコロナ禍の甚大な影響を被っており、回復の兆しが見えない。	回復の兆し見えず	電子応用装置製造業
	受注自体は好転しており上昇傾向であるが、鉄鋼材料の値上げと半導体不足の影響が続いており、先が見通せない状況である。	受注好転 鉄鋼材料値上げ、半導体不足	機械・同部品製造業
	半導体不足の余波で、引き続き売上減。10月以降、受注増加を見込んでいるが、どんなマイナス要因が出てくるのか不安はある。原材料の高騰は吸収できず、値上げ交渉をしなければならぬほどである。ワクチン接種を希望する従業員の9割は1回目を接種できているが、まだ予約がとれない自治体もある。ここまで社内感染者ゼロなので、これからもできる限りの対策を講じて従業員の健康と会社の生産活動を守っていきたい。	半導体不足による売上減少 原材料高騰による価格転嫁 感染症対策と生産活動の両立	金属製品
	9月は業務用製品の製造ラインの製造が無いため、従業員の自宅待機を実施。9月末で緊急事態宣言が解除され、飲食需要も増えてきて製造量も増加すると予想。新型コロナウイルス第6波によって、再度の緊急事態宣言発出等の可能性は否めないのが苦しいところ。	従業員の自宅待機実施 緊急事態宣言解除による影響	酒類製造業
	自動車・半導体関連ともに、客先が半導体入手困難で減産拡大。また、ベトナムが7～9月の間ロックダウンしていることにより、工業用ミシンの現地部品が入手困難で問題。	半導体不足で減産拡大 ベトナムのロックダウンの影響	金属素形材製品製造業
	新型コロナウイルスの影響は価値観の混乱を招き、分割を繰り返し転化を促す。まだまだ続く様相を感じる中、現在いただいている仕事に感謝を込めて取り組んでいる。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	緊急事態宣言が解除されたが、第6波の不安があり、しばらく様子を見ながらの活動になる。仕入材料が値上げ基調にあり、すぐに販売価格への転嫁が難しい状況。この先さらに値上げが増えてくると予想される。	材料値上げ	化学工業
	派遣スタッフの人材が不足し、採用までに至らない。新しい設備投資は順調に進んでいる。テレワークは緊急事態宣言が解除されても当分は継続実施する。	人材不足 設備投資順調 テレワークの継続	鉄鋼業
	緊急事態宣言解除が仕事につながることを期待したい。感染状況等を見ながら、国や自治体による適切な行動につながる説明や、行動指針を示してもらいたい。	緊急事態宣言解除の影響	印刷業
	早くコロナが収束することを祈ります。まずコロナ防疫を最優先に従事人の移動の自粛は変わらないようで、お彼岸は縮小傾向だった。銘菓や駅弁など地域フェアについては好調を維持。ネットスーパーは子育て世代が増加している。	コロナ対策の実施 お彼岸縮小 地域フェア好調 ネットスーパー利用増加	百貨店 大型小売店
	祝日が不規則になる中でも、安定して受注を確保できた。	安定した受注の確保	建築材料卸売業

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	9月は売り出しの成績が少し良く一安心。ただ、10月からの緊急事態宣言解除で感染拡大が広がらないだろうか。安定してくれば客足も戻るのではないかと楽観的に考えている。初期感染者向けの経口薬承認を、只々待ち望む！	売り出し好調 緊急事態宣言解除の影響 初期感染者向け経口薬の承認	時計・眼鏡・光学機械小売業
	9月上旬の長雨で客足が鈍った。	長雨で客数減	洋菓子店
	人の流れがかなり戻ってきた。緊急事態宣言の解除により更に良くなると思う。但し、迎える対応は手を抜いてはいけない。	人流回復	各種商品小売業
	昨年の9月の売上が高かったのが今年越せなかったが、数字は悪くなかった。コロナ禍での販売方法が固まりつつある。今後3カ月は宣言解除、年末商戦がからむのでそこまで数字は悪くならないと思うが、感染症拡大がとにかく心配。顧客の小売店や飲食店も今がチャンスとばかりに出店しているので、卸売りとしてもうまく波にのりたい。	売上安定 緊急事態宣言解除 年末商戦	農畜産物・水産物卸売業
	緊急事態宣言解除にあたり少しでも業績が向上する事に期待。	緊急事態宣言解除による売上	洋菓子店
	緊急事態宣言とお盆前の高温、打って変わって天候不順により地元生産物が収穫不良になるなど、悪影響が重なった。	天候不順 農産物収穫不良	各種食料品小売業
サービス業	お酒が提供できない状況が続き、売上高は減少傾向。10月以降は緊急事態宣言解除によるお酒の提供開始による客数の増加が見込めるが、コロナ禍前には戻らず、厳しい状況はしばらく続きそうだ。	酒提供制限により売上減少	日本料理
	コロナ明けの準備段階まで来たかなと感じている。税理士業界は、これから企業の減少数に比例して悪くなると思いますが、当分の間は不変かと思う。	企業数減少による影響	税理士
	昨年手がけた事業基盤を元に、数珠繋ぎに受注する見込み。	数珠つなぎで受注見込み	ソフトウェア業
	売り物件が減少したままであり、その影響で価額も高止まりしている。建売住宅用地が激減している。一般の最終顧客の購入意欲は、底堅いものがある。	売り物件減少 建売住宅用地激減	不動産管理業
	今秋、既存テナントの契約形態変更に伴うの契約改定があり、家賃収入の改善が見込まれる。また、駐車場の稼働率が、上昇傾向にある。	家賃収入が改善する見込み 駐車場の稼働率上昇	不動産賃貸・管理業
	9月中は通塾とオンラインとを半分ずつに設定し、交互に入れ替えながら授業を行った。ただ、自宅での画面越しの授業では集中力が欠けてしまうという生徒や、講師の側からも、確認テストが行いにくい、生徒の手元が見えないなど、オンライン授業に関する不安や不満がいくつか出た。10月からはすべて通塾形式に戻す予定だが、これから冬に向かってまた感染者が増加した場合に備えて、オンラインでの授業形式に今のうちから何か対策を講じる必要があると考えている。	オンライン授業の問題と対策	学習塾

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 35.9	 ▲ 31.5	 ▲ 34.7	 ▲ 48.2	 ▲ 22.2
CCI-LOBO	 ▲ 33.2	 ▲ 18.7	 ▲ 18.1	 ▲ 48.0	 ▲ 43.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.8	 ▲ 36.8	 ▲ 17.3	 ▲ 37.9	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 30.4	 ▲ 20.2	 ▲ 11.7	 ▲ 48.7	 ▲ 42.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.2	 ▲ 26.3	 ▲ 30.4	 ▲ 44.8	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 34.4	 ▲ 22.0	 ▲ 22.2	 ▲ 46.7	 ▲ 45.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 46.0	 ▲ 47.3	 ▲ 69.5	 ▲ 44.8	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 44.1	 ▲ 60.8	 ▲ 49.7	 ▲ 36.1	 ▲ 31.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.7	 21.0	 13.0	 ±0.0	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 10.1	 31.0	 5.7	 8.7	 5.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.7	 ▲ 21.0	 ▲ 26.0	 ▲ 10.3	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 21.7	 ▲ 4.2	 ▲ 14.8	 ▲ 31.0	 ▲ 35.5

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：2021年9月13日～17日

調査対象：全国の337商工会議所が2,644企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緊急事態宣言延長の影響が続き、悪化。先行きは、日常生活回復への期待感も、厳しと続く

9月の全産業合計の業況DIは、▲33.2と、前月から▲3.8ポイントの悪化。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間延長に伴う、営業制限、イベント中止等の影響が続く中、客足が遠のく飲食・宿泊などのサービス業や小売業が悪化した。

また、製造業では、半導体不足や東南アジアでの感染拡大を背景とする部材調達難など生産活動への影響を指摘する声が聞かれた。公共工事に下支えされた建設業は底堅いものの、鉄鋼や木材などの原材料価格の上昇、天候不順による野菜価格の上昇が業況の押し下げ要因となるなど、中小企業の景況感は一段と厳しい状況にある。

先行きについては、先行き見通しDIが▲31.0(今月比+2.2ポイント)と改善を見込む。ワクチン接種の進展に伴い、政府から日常生活回復の方針が示され、経済

活動正常化への期待感が広がっている。一方、当面の間は感染対策が求められ、受注・売上減少や客足回復の遅れが継続することから、経営への影響を不安視する声は多い。さらに、半導体不足や部材調達難を受けての生産調整、原材料価格上昇分の価格転嫁の遅れ、最低賃金引き上げに対応しての人件費の上昇などもあり、中小企業の先行きへの見通しは、厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業、卸売業、小売業、サービス業で悪化、建設業は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「防災・減災の土木を中心とした公共工事の受注により売上を確保しているものの、木材や鉄鋼などの資材価格上昇が収益を圧迫している」(一般工事業、

「設備投資関連の受注減が続く中、最低賃金の引き上げや労働時間上限規制への対応を迫られ、雇用環境は厳しい状況」(職別工事業)

【製造業】「電子部品や鋼材の調達が困難になっていることに加え、仕入れ価格の上昇が続いている。取引先への販売価格転嫁の交渉に向け、従業員教育に力を入れていく予定」(特殊産業用機械製造業)、「前年同月と比べて売上は改善しているものの、原材料の高騰が著しく、販売単価への転嫁が追い付かない」(水産食料品製造業)

【卸売業】「夏の天候不順による生育不良から、じゃがいもなどの北海道産野菜や葉物野菜の価格が上昇しており、引き合いが鈍い」(農産物卸売業)、「ウッドショックや東南アジアの新型コロナウイルス感染拡大による資材の入荷遅れから、売上は悪化」(建築材料卸売業)

【小売業】「都市部の緊急事態宣言の延長に伴い、飲食店向けの需要低迷が続くほか、イベントや冠婚葬祭の自粛・

規模縮小による売上減が続いている」(酒類小売業)、「内食需要による売上は堅調。ただし、地域の感染拡大により折込チラシでの販促を停止するなど、大規模な販促イベントを自粛している」(総合スーパー)

【サービス業】「県の要請に従い、19時までの酒類提供と20時までの営業を行っていないが、来店客数が落ち込んでおり、売上は前年同月比50%の悪化となった」(飲食業)、「緊急事態宣言の対象地域となったことから、低稼働ではあるものの売上を確保できていた宿泊の利用客が激減した。ホテル内レストランの営業を1カ所のみとし、人件費等のコスト削減を図っている」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
6月	▲26.7	▲19.8	▲14.6	▲25.8	▲41.8	▲30.6
7月	▲24.1	▲18.2	▲9.7	▲28.3	▲37.6	▲28.9
8月	▲29.4	▲20.9	▲12.5	▲30.7	▲44.4	▲37.9
9月	▲33.2	▲18.7	▲18.1	▲35.0	▲48.0	▲43.8
見通し	▲31.0	▲19.9	▲22.2	▲29.5	▲40.2	▲39.6

柏の景気情報 (令和3年9月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間：令和3年9月27日～10月7日 調査対象：柏市内129事業所及び組合にヒアリング、回答数89件

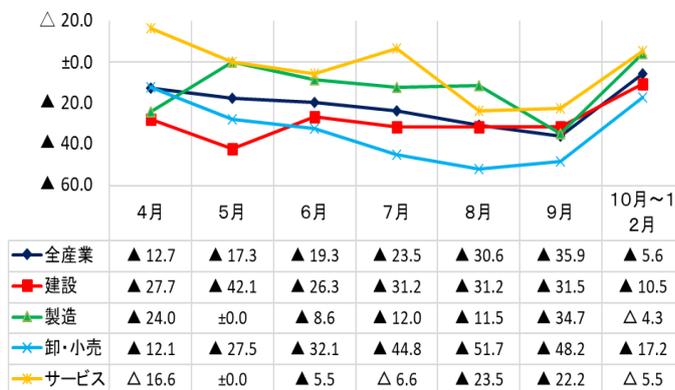
全産業DIは5か月連続で悪化。緊急事態宣言が解除となり、経済活動の正常化へ向かう期待感強い

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.9(前月水準▲30.6)となり、マイナス幅が5.3ポイント拡大した。

緊急事態宣言が発出している中、大型小売店からは、銘菓や駅弁など地域フェアは好調を維持し、子育て世代のネットスーパー利用が増加している、不動産業からは、一般顧客の買い意欲は底堅い、駐車場の稼働率が上昇傾向であるとコメントがあった。DI値が大きくマイナスした製造業は、受注は好転しつつも半導体不足、材料の値上げが深刻で、価格転嫁に悩んでいる。また、建設業からは人手不足や原材料高騰についてコメントがあった。

先行きDIは▲5.6(前月比+30.3)であり、緊急事態宣言の解除により、経済活動の正常化に対する期待感強い。

柏の景気情報・産業別業況DI



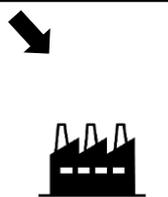
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「緊急事態宣言解除で、今後の展開など情報交換の機会ができればよい」(塗装工事)、「相変わらず人手不足。オリンピック後の景気後退は起こるのか。ゼネコン不況の波が、いつ地元に来ってくるか」(土木工事)、「62周年企画でベイスショップを開設。ネット通販が可能に」(畳)、「ウッドショックで木材が高騰。建築資材は全般的に値上がりしている」(一般土木建築工事)、「従業員不足で仕事がかどらない上、従業員が濃厚接触者に。人手不足に拍車をかけ、売上に大きく響いている」(とび)、「年内は好転力続く。来年以降は読めない」(職別工事業)



製造業

「コロナで滞っていた海外工場の生産ラインが僅かに動き、発注がかかりました。しかしコロナ前の1割程度で、回復には遠い」(プラスチック加工)、「受注は好転。鉄鋼材料の値上げと半導体不足の影響が続き、先が見通せない」(機械・同部品)、「半導体不足の余波で、引き続き売上減。10月以降は受注増加を見込んでいる。原材料の高騰は吸収できず、値上げ交渉をするほど。今まで社内感染者ゼロなので、今後も対策を講じて従業員の健康と会社の生産活動を守りたい」(金属製品)、「業務用の製造が無く、従業員の自宅待機を実施。緊急事態宣言の解除で飲食需要が増え、製造量の増加を予想している」(酒類)、「自動車・半導体関連ともに、客先の半導体入手困難で減産拡大。また、ベトナムが7～9月の間ロックダウンしている影響で、工業用ミシンの現地部品が入手困難」(金属素形材製品)、「仕入材料が値上げ傾向だが、価格転嫁が難しい。今後も値上げは増える予想」(化学工業)、「派遣スタッフが不足しているが、採用まで至らず。新しい設備投資は順調。当分はテレワークを継続」(鉄鋼)



卸・小売業

「早くコロナが収束することを祈り、まずは防疫が最優先」(百貨店)、「お彼岸は縮小傾向だったが、銘菓や駅弁など地域フェアは好調を維持。子育て世代のネットスーパー利用が増加」(大型小売店)、「祝日が不規則な中、安定して受注を確保できた」(建築材料卸売)、「9月は売り出しの成績が少し良く一安心。緊急事態宣言解除で感染拡大が心配。初期感染者向け経口薬承認を待ち望む！」(時計・眼鏡・光学機械小売)、「9月上旬の長雨で客足が鈍った」(洋菓子店)、「人の流れが戻ってきており、更に良くなると思う。迎える対応は手を抜いてはいけない」(各種商品小売)、「コロナ禍の販売方法が固まりつつある。今後、宣言解除、年末商戦で数字は悪くならないと思う。小売店や飲食店が、今がチャンスと出店しており、うまく波にのりたい」(農畜産物・水産物卸売)「緊急事態宣言とお盆前の高気温、その後の雨で地元生産物が収穫不良になるなど、悪影響が重なった」(各種食料品小売業)



サービス業

「お酒が提供できず売上減。10月以降は提供開始で客数増加が見込めるが、厳しい状況は続きそう」(日本料理)、「コロナ明けの準備段階に来たかなと感じている。税理士業界は、企業の減少数に比例して悪くなると思うが、当分は不変かと思う」(税理士)、「昨年手がけた事業基盤を元に、数珠繋ぎに受注見込み」(ソフトウェア業)、「売り物件が減少したまま、価額も高止まり。建売住宅用地が激減。一般の最終顧客の購入意欲は底堅い」(不動産管理)、「今秋、既存テナントの契約形態変更に伴う改定があり、家賃収入の改善を見込む。駐車場の稼働率が上昇傾向」(不動産賃貸・管理)、「9月は通塾とオンラインで交互に授業した。生徒からオンラインは集中力が欠ける、講師から確認テストが行いにくいと不満が出た。10月から通塾に戻すが、今の内にオンライン対策をしたい」(学習塾)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲35.9に対し、「CCI-LOBO」が▲33.2で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業である。先行きについては、「柏の景気」が▲5.6と大幅に改善する見通しだが、「CCI-LOBO」は▲31.0と改善幅が小さい。